ちいさな証

一日一日が奇跡の日々

タリーサ久実・ウィットマー
スイス日本語福音キリスト教会

今回、証を分かち合うお話しを頂き、何を話そうか思い巡らしていた時、14年ほど前の母教会での証会の録音に出くわしました。そこには私の両親の証もありました。

ざっと紹介すると、2人は共に東京で自営業をしながら、７人の子供をホームスクールで教育して常に多忙で、職業柄体の痛みと闘いつつ納期に追われ、不安定な収入や子供の教育における自分たちの足りなさを自覚させられと、ある意味、生活に不満がある。と同時に、信仰により全く不安がない。「一日一日が主の守りによる奇跡の日々と感じ、子供がちゃんと育っているのが不思議。神さまは決してケチなお方ではなく、むしろ私達に契約の祝福をお与えになりたいのだと、みことばと経験を通して神様が教えてくださっている。だから、主に在って希望を持つなら、その希望は大きい方が良い」という励ましの内容でした。

母にその録音を送ると、母は自分が14年前にどんな証をしたかは憶えておらず、証の録音を聞いた母は、夫の証と自分の証にとても励まされ、当時のこれらの言葉もまた、神様が口に備えて下さったものだと思う、と言っていました。

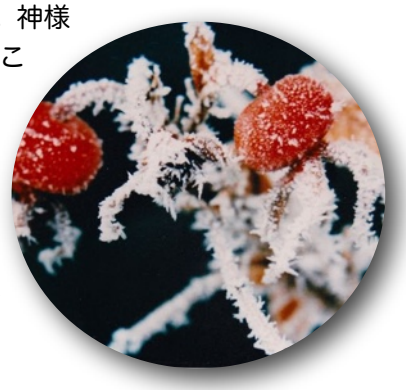
実は、私の父はこの証をした1年半後のある朝、突然、交通事故で天に召されました。その朝家を出る時、母に「今晩帰ったら、昨日やった詩篇4篇をまたみんなで学ぼうねあー、楽しみだ。」と言ったのが、父の最後の言葉でした。その後の私たちの生活はそれまでと大きく変わったことは言うまでもありませんが、神様は、私達のために日夜体を張って家族を支えていた父が居なくなった後も、両親の証にあった通りに、神の恵みと不思議な奇跡の連続によって、私達の生活と教育を守ってくださいました。

聖書にはダビデの時代に、いかに音楽を通して神を崇めていたかが記されていますが、「豊かな現代こそ、賛美もダビデの時代のように豊かであって良いはずだ」という思いから、父は自分の家は主を賛美する家庭であろうと願い、導いてくれました。父自身も音符を学ぶことから始め、家族皆で合唱練習に参加するようになりました。私達子供は、子供ながらにJ.S.バッハなどのみことばを伴う素晴らしい音楽に魅了されて、やがて幾人かは音楽を専門的に学びたい思うようにもなり、その方向で歩んでいました。一家の大黒柱が居なくなったので、その思いを諦めるしかないと他の子も私も思いました。しかし、母はとにかく祈りつつ、各々音楽などの学びを続けようと子供達を励ましてくれました。主は母にその力と思いをくださり、そしてその祈りを聞いてくださいました。

今私たち子供は皆、音楽家の働きをしています。特に秀でた才能もない７人全員が相当悩みながら主と自分自身と向き合ってきたと思いますが、神様は私達が諦めそうな時も何度も助け忍耐させて道を備えてくださいました。沢山の方の助けを通しても愛と励ましを注いでくださいました。そこには、主の教会・兄弟姉妹の祈りが常にあったことを覚えます。交わりと繋がりを通して、家族と信仰の友の尊さを教えられています。どこに居てもキリストに在って一つとされ、祈りで繋がっていることを覚えてそれを成してくださるイエス様に感謝します。

「主が良くしてくださっていた。全ては神の恵みに他ならない。」と、母、姉妹とともに、心からあわれみ深い主に感謝します。(詩篇4、9、15:5-6)

私の弱さも脆さもご存知の主は、祈ると慰めてくださり、力と喜びを与えてくださいます。これらすべてを通して主は私たちの父であり、御霊が友でいてくださると、繰り返し教えてくださいます。(ローマ8:18-39)既に勝利してくださったイエス様に感謝し、神のことばを抱きしめて生きていきたいと思います。神様は豊かに祝福なさるためにこの世を創造し、人を神の似姿に創造したことを覚えて、主と共に歩めますように祈ります。



生きておられる神を慕って、父と呼べる幸いを感謝しつつ。